

平成29年度の重点目標達成に向けたテーマ及び具体的な取組（学年・分掌版）

学 年・分 掌 名： 進路指導部

記入者氏名： 鈴木 亘

**本年度の重点目標**

人材育成と自己実現

すべての教育活動を通じて人材育成を図り、人格の完成と自己実現を支援する

**\*実践指針**

すべての教育活動において「追究姿勢の育成」を念頭に置き、これを通して、先行き不透明な時代に挑戦し、自己と社会の未来を切り拓く人材（21世紀人材）の育成を図り、人格の完成と進路目標の達成を含めた自己実現を支援する。

**\*具体的な手立て（該当番号に○印）**

- 1 多様な能力を活用する授業を通しての学力の向上を図る
- 2 各種追究活動を通して自己啓発の意欲と追究姿勢の強化を図る
- ③ 深い生徒理解を基盤として自己実現を支援する
- 4 社会貢献活動等を通して地域や社会に信頼される人材の育成を図る
- 5 部活動など特別活動の活性化を通して豊かな人間性を育む。
- 6 国際交流の活性化を通して情報活用能力を含めた国際性の育成を図る

月	<b>各学年・分掌のテーマ及び具体的取組の作成及び実践 Plan～Do</b>
4   6 月	<p>(テーマ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 生徒の進路志望に対する主体的・能動的な行動を促し、その実現を目指す</li> <li>◇ 面談を通して生徒個々の意欲を喚起し、志望達成のための支援をする</li> </ul> <p>(具体的取組)</p> <p>面談期間の活用を促すと共に、面談期間以外でも継続的に生徒とのコミュニケーションを積極的に図り、信頼関係の深化を目指す体制を構築する。また、進路志望調査やFine Systemを用いた成績資料等、面談の土台となる基礎資料を担当などが活用しやすいように整理する。</p>
<b>各学年・分掌の検証方法及び具体的取組の検証（1） Check</b>	
4   7 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1回目指導主事等学校訪問での指導事項</li> <li>・ 管理職及び分掌主任会議による検証</li> <li>・ 第1回授業アンケートの結果</li> <li>・ 第1回学校評議員会での提言・指摘事項</li> </ul> <p>(検証結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回の面談期間を昨年度からやや長めにしたこともあり、年度当初の生徒とのコミュニケーションを深めることに有効に活用されている。また、第2回面談期間の直前に生徒指導部主催の教員研修が実施された事は有意義であったものと思われる。</li> <li>・ 各学年の進路担当者が積極的な活動を進めており、情報の共有や提示は例年より進んでいるものと思われる。Fine System等の活用に関しては1学期に對外模試がほとんどなく、結果について返却されたのが夏休み中であつたために今後の活用の様子を見て判断したい。</li> </ul>

### 検証（１）から、改善のための具体的取組 Action～Do

8  
|  
11  
月

(改善のための具体的取組)

- ・面談期間で得られた生徒理解が生徒の行動に反映される工夫が必要である。面談シートの共有化などを今後も進めていきたい。
- ・平成33年度からの大学入試改革に向けてベネッセコーポレーションから講師を招いて講習会を実施するが、こればかりではなく、10月には国大協の基本方針が策定されるなど大きなターニングポイントになることが続くので今後も職員に対する情報提供に努めたい。
- ・また、ベネッセコーポレーションでは High School Online において過去の受験レポートばかりではなく、推薦・AO出願時の支援システムなども稼働するなど拡充を進めてきており、使用できるものから周知を進めていきたい。

### 改善のための具体的取組の検証（２）、次年度に向けて Check～Plan

12  
|  
2  
月

- ・学校訪問での指導事項
- ・管理職及び分掌主任会議による検証
- ・授業アンケート結果
- ・保護者アンケート結果

(検証結果)

- ・ベネッセから講師を迎えて、高大接続改革に関しての職員講習会を実施したが、多数の職員の参加があり非常に有意義であった。今後も平成33年の新大学入試に向けてアンテナを高くし、万全の体制で新入試に向かうための手立てを実施していきたい。

○保護者アンケート結果

- ・「学期ごとに面談があり、適切に指導してもらっている」、「担任の先生から良いアドバイスをもらっている」という声が多く、年2回実施している進路面談が確実に機能している。今後も面談に関する職員間の方向性の統一や資料の提供方法について、進路指導部と学年部の協力・連携を深めていきたい。
- ・昨年度も同様の指摘があったが、「国立大学重視の指導が気になる。私立大学合格のための指導に力を入れて欲しい」、「黎光に私立大学合格者の体験記がほとんど載らないのを疑問に思う」という声がある。国立大学のみ固執している印象を保護者に与えている状況に関しては、情報発信の体制等を検討し直し、学校の体制や方針を正しく伝えるような努力を継続していきたい。
- ・大学受験に関して、「保護者にも説明会をして欲しい」等の要望があった。PTA等の機会を利用して情報提供は十分行っているつもりではあるが、個々の保護者への対応という面を考慮すると、組織的な保護者面談の実施についての改善を図っていかねばならない。特に、AOや推薦入試がこれまで以上に増えていくと予想される状況の中、保護者が不公平感を持たないような配慮が必要である。

(次年度に向けて)

- ・生徒に関しては勿論であるが、保護者に対する適切な情報発信の方法（提供媒体や時期等も含め）を改善したい。
- ・進路指導が単なる受験指導とならないよう、将来のキャリア実現を達成するために広い視野で問題に対処できる人材育成に取り組む。
- ・来年度の「C l a s s i」導入を踏まえ、各種資格や特活記録等の一元管理のシステムの構築を各分掌と協議する必要がある。

### (外部評価) 2月27日(火) 学校評議員会・学校評価委員会の評価

・評価は B ○

キャリア教育実践モデル校事業3年間の取組について、国公立AO・推薦合格者が30名（昨年度比+12）と大幅に増加する等成果が出ている。今後も志望大学決定に終始する指導から、生徒のキャリア発達段階を踏まえ、生徒の気持ちに寄り添った指導への転換をお願いしたい。また要望等もあることから、保護者に対しても適宜大学入試に係る進路情報をこれまで以上に提供・発信することが必要である。目前に迫った大学入試改革の流れを見据えながら、取組を加速化してほしい。